

## 九州朝日放送番組審議会議事概要（3月分）

第571回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成27年3月9日（月）午後3時30分～5時
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 8名</p> <p><b>（出席委員）</b> 光富彰委員長、宇加治恭子副委員長 宇佐見昇委員、藤田ひろみ委員 古宮洋二委員、宮田克彦委員 三好京子委員、松村茂雄委員</p> <p><b>（放送事業者側出席者名）</b> 代表取締役社長 武内健二、常務取締役編成制作局長 半田俊彦 ラジオ局長 窪田雅美、報道局長 佐伯拓史 視聴者・広報室長兼番審事務局 久芳康治 テレビ制作部長 大保一、番組プロデューサー 山田利宣 番組審議会事務局 今村洋子、事務局・ラジオ編成業務部 都合信司</p>
議題	<p>1. テレビ番組 「ドオーモ」「ドオーモ年末SPホークス勝利給の旅」 レギュラー：月～木 深夜0時15分～1時10分 スペシャル：2014年12月28日（日）深夜0時10分～1時35分</p> <p>2. 平成27年3・4月ラジオ・テレビ番組編成状況 平成27年2月視聴者・聴取者応答状況等の報告</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○番組が25年以上も続き、視聴者に支持されているのはすばらしい。</li> <li>○ドオーモという番組は明るく騒がしいが、悪意、下品さ、粗暴さがないところが長寿の秘訣ではないか。</li> <li>○「勝利給の旅SP」は、ドオーモらしいロードムービー風の破天荒な企画で面白かった。</li> <li>○今の若者そのもののリポーターが、番組の中で成長していく姿を興味深く観た。</li> <li>○作り物ではないドラマは感動を呼ぶことを改めて感じた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「勝利給の旅SP」は、沖縄に比較して、鹿児島上陸からドーム到着までの尺が短く物足りなかった。</li> <li>○主カタレントだのみの企画から脱却することも課題ではないか。</li> <li>○取材の強引さを感じる点があった。</li> <li>○企画パターンの亜流もあるし、マンネリ化との闘いがあると思うが、一方で偉大なるマンネリズムを継続する闘いにも挑戦してほしい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○やっぱりテレビって楽しいと思ってもらえること。そして嘘がなく、信頼してもらえる番組作りをコンセプトにしている。</li> <li>○「勝利給の旅」企画の中で、視聴者からの反響に、放送の力、そしてテレビを信じてやり続けるしかないことを再認識した。</li> <li>○ドオーモは、表面的な面白さの先にあるドラマ、人間を描く番組でありたい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの説明を行いました。</p>